

なますて



नमस्ते ※「なますて」とは… インドのあいさつで「おはよう」や「こんにちは」の意味で使われます。我々の称える「南無」の語源とも言われています。

お・も・て・な・し

東京五輪の招致活動のプレゼンテーションで話題となった「おもてなし」はどういう意味かという、「～を以て～を為す」ということです。

では「～」に何が入るのでしょうか？ 色々な説はあるようですが、「行為を以て、思いを為す」。つまり、具体的な行動により思いや心を表す…ということになります。

東日本大震災の後、テレビやラジオで繰り返し繰り返し流されていた公共広告機構のCMを覚えている人も多いでしょう。『思いは見えないけれど、思いやりは見える 心は見えないけれど、心配りは見える』…というものです。いくら心に思っている、行動に移さないとなかなか相手には伝わらない…ということです。感謝の思い、尊敬の気持ち、歓迎の心…素直に、しかし恩着せがましくならにように行動に移したいものです。

お釈迦様の教えに『和顔愛語』という言葉があり「わけんあいご」と読みます。『和やかな笑顔と、思いやりのある優しい言葉』と言う意味です。たとえお金が無くても、いつでも、どこでも、誰にでも出来ること。しかし簡単なようで常に…となるとなかなか難しいですね。でもこれが『おもてなし』の基本だと思えます。

道元禅師の言葉に『愛語よく回天の力あることを知るべし』とあります。「思いやりのある深い言葉は、相手の人生をも変える力がある」という意味です。どうぞ『和顔愛語』という言葉をお忘れず、「おもてなしの思い」を実践して頂ければ幸いです。

多謝

総本山本尊阿弥陀如来修復寄付金について

お檀家の皆様よりお預かり致しました標記寄付金をこの度無事に総本山へ入金致しました。お陰様をもちまして784戸の檀家さんより**2,765,000円**もの浄財が集まりました。

つきましては、御寄進いただきました檀家さん各々に総本山より御礼と礼状とが送られて参りました。総代・組頭さんを通してお渡ししたいと思います。ご査収下さい。

現在、御本尊は京都の工房にて順調に修理修復が進んでいる様です。再来年(平成31年)の二祖上人700年御遠忌には以前にも増して立派な御本尊をお迎えし、御遠忌法要を厳修出来ることと思います。

ご協力いただき、衷心より御礼申し上げます。

合掌

平成29年 時宗総本山参拝の旅

昨年に続き今年も時宗総本山遊行寺(清浄光寺)への参拝旅行を行いました。11月4日～6日の2泊3日の日程で、今年も檀家さんでもある佐々木尚敬さんに企画・添乗をお願いしました。昨年とほぼ同じ30名のご参加をいただきました。

今年は最高のお天気にも恵まれ、朝8時に光林寺をバスで出発、約2時間おきにPAにてトイレ休憩しながら、リラックスムードで楽しい旅となりました。

夕方5時過ぎに本山に到着。早速、第74代真円上人との御対面をさせていただき、前住職との思い出話などお話ししました。その後夕食、入浴、そして部屋では多少のアルコールも入って懇親を深め、9時に消灯。翌朝は5時から御上人様も出座されての法座(お勤め)に参加。各家先祖代々のご供養をしていただきました。

この日は、トランプ大統領の来日により心配された交通渋滞等などもなく、無事、東京湾アクアラインを經由し房総半島方面へ。鋸山・日本寺・鴨川シーワールドを見学。特にシャチのショーで水浸しになりながら童心に帰って盛り上がりました。そして「黄金風呂」で有名な鴨川ホテル三日月にて宿泊。豪華な食事で皆さん満足して下さったようです。

最終日は鯛の浦で観光船に乗り、誕生寺に参拝し紅葉には少し早い養老溪谷の散策を楽しみ、お土産も沢山買って帰路につきました。到着は予定より大分遅れて9時近くになりましたが、事故もなく全員元気に帰ることが出来て本当によかったです。皆さん楽しかったと言って下さり何よりでした。ありがとうございました。

また次の機会もあると思いますので、どうぞ皆様のご参加をお待ちしております。



延喜光林寺 本山団体参拝記念 於 時宗総本山遊行寺本尊 平成29年11月5日

↑ 総本山遊行寺での記念写真



↑ 日本寺での記念写真

秋季開山忌

去る、11月23日、恒例の秋季開山忌が行われました。当日は肌寒い日でしたが、祝日ということもあってか、たくさんの方に参詣いただきました。一般参拝者は約190名程でした。

今回の塔前(当番)の熊谷武忠総代・板垣光善総代(ともに大瀬川地区)の組下総勢約80戸のご協力により無事開催することができました。

また当日は、朝から塔前の御婦人方総勢40名程の皆さんに約200食のおいしい食事の支度をしていただきました。法要のお手伝いを頂いた県内の和尚様方にも「大変美味しい」と評判でした。本当にありがとうございました。

また、40名の御詠歌講員の皆さんが法要前に30分ほど御詠歌の奉詠をしていただきました。

御詠歌とは、先人が仏法(仏の教え)を歌や詩にし、それに節をつけお唱えするものです。光林寺では昭和24年から大和流の御詠歌を奉詠しております。まだお聞きでない方は、是非、一度お聞き、興味のある方はご参加いただきたいと思います。

これだけお檀家の皆様にご協力いただいて成り立っている開山忌は他には、まずありません。大変なご面倒をおかけしているとは思いますが、どうぞ、これからもご協力いただきますようよろしくお願い致します。



↑ 住職法話



↑ 御詠歌奉詠



↑ 食事風景

平成30年春季開山忌のご案内



日時 平成30年4月23日(月)

午前 9時50分 御詠歌奉詠

午前10時30分 ご法話

午前11時00分 開山忌法要

※次回の春季開山忌の塔前(当番)地区は
宮野目・葛・田力・豊沢・花巻 地区の皆様です。
ご協力の程、よろしくお願い致します。

第55回光林寺寄席

毎年、恒例の『光林寺寄席』が10月1日(日)に開催されました。
今回お呼びしたのは『柳家三三(さんざ)』師匠です。三三師匠は光林寺寄席にも度々ご出演いただいております“人間国宝”『柳家小三治』師匠のお弟子さんでいらっしゃいます。古典落語を得意とし、将来の落語界を背負って立つ新家の1人と目されています。遠くは秋田県からも来場下さるなど180名の来場者があり、人気の程が窺えます。

いざ、高座が始まると軽快な語り口から次から次へと言葉が紡がれます。師匠ゆずりの長めのマクラ(※)。時事ネタやら某落語家ネタで爆笑させつつ徐々に三三ワールドに引きずり込まれて行きます。地唄(※)の代表格『お血脈(けちみゃく)』、「寿限無」と並ぶ言い立ての心地よい唄『金明竹(きんめいちく)』の二本立て。とにかく、笑わせていただきました。この若さで(43才)この完成度。未恐ろしく(いびろ)

次回は平成30年7月8日(日)に『柳家喬太郎』師匠をお呼びする予定です。ご期待下さい。



柳家三三 師匠

芸歴

- 1993(平成5)年3月 柳家小三治に入門
- 1993(平成5)年5月 楽屋入り
前座名「小多け」
- 1996(平成8)年5月 ニツ目昇進
「三三」と改名
- 2006(平成18)年3月 真打昇進

※また、今回も裏千家 高橋宗章 社中の皆さんに、お茶席のご協力をいただきました。ありがとうございました。



除夜の鐘 & 元朝参り

光林寺では大晦日の23:55頃から0:30頃までにお参りいただいた皆様に除夜の鐘をついていただいています。例年、大変冷え込みますので、暖かくしてお参り下さい。なお、鐘突き参加の方には温かい飲み物を用意しております。どうぞ、ご参加下さい。

また、ご希望の方には御札(阿弥陀如来・熊野権現)を正面玄関にてお授けしております。(志納¥2~3,000)

※本年も、光林寺東側の道路が拡幅工事中です。

深夜にお越しの際は、特にお気を付け下さい。

